目次

ショートカットキー及びショートカットメニューの使用 1
ショートカットキー及びショートカットメニューの使用: イントロダクション 1
ショートカット キーについての参照 1
ショートカット メニューについての参照 9
Windows の標準ダイアログ ボックスでのショートカット メニュー 10
ツール バー エリアでのショートカット メニュー 11
グラフィックス表示ウィンドウでのショートカット メニュー 13
編集ウィンドウでのショートカット メニュー 23
レポート ウィンドウでのショートカット メニュー 33

ショートカットキー及びショートカットメニューの使用

ショートカットキー及びショートカットメニューの使用: イントロダクション

この付録では、PC-DMIS で使用されている、メニュー オプション、ダイアログ ボックス、及び、コマンドの多くへのショートカットについて記述しています。ショートカットを使用すると、プログラム作成の時間が短縮され、生産性と効率の増加につながります。

この付録で記述されている、主な項目は以下の通りです。

- ショートカット キーの一覧
- ショートカット メニューについての参照

ショートカット キーについての参照

このテーブルには、英語で利用できるショートカットキーのリファレンスを提供します。ショートカット キーについての内容説明の冒頭が *イタリック体*で始まる場合、そのショートカットキーが適切に機能するためには、イタリック体テキストの項目が、アクティブなウィンドウであるか、または、焦点の当たっている項目でなければなりません。各オプションの機能固有の情報については、当文書の該当するセクションを参照して下さい。

非英文のショートカット キー キーボードは言語によって異なるため、非英語版で構築された PC-DMIS では一部のショートカット キーの設定が異なる可能性があります。どのショートカットが PC-DMIS の非英語版に関連しているかを確認するには、**カスタマイズ**ダイアログボックスの**キーボード**タブを参照してください。この**カスタマイズ**ダイアログボックスにアクセスするには、ツールバーエリアで右クリックして、**カスタマイズ**を選択します。**キーボード**タブを使用する情報については、「ユーザインターフェースのガイド」の章にある「ショートカットキーのカスタマイズ」を参照してください。

キー	説明	キー	説明	キー	説明
F1	オンラインヘルプにアクセスします。	Ctrl + A	*編集ウィンドウ:* すべてのテキストを選択します。 フォームおよびレポート エディタ: すべてのオブジェクトを選択します。	Ctrl + F1	PC-DMIS を変換モードに置きます。
F2	*編集ウィンドウ:*カーソルが、式を受け入れるライン上にある場合、**式ビルダ** ダイアログ ボックスを開きます。	Ctrl + C	*編集ウィンドウ:* 選択されたテキストをコピーします。 フォームおよびレポート エディタ: 選択された オブジェクトをコピーします。	Ctrl + F2	*グラフィクスウィンドウ:* PC-DMIS を回転 2D モードにします。 *編集ウィンドウ:* コマンドモードにある場合、現在の行でブックマークを挿入または削除します。
F3	*編集ウィンドウ:*実行用のコマンドを選択 / 選択解除します。 カーソルが外部オブジ	Ctrl + D	現時点のフィーチャーを削除します。	Ctrl + F3	PC-DMIS を回転 3D モードに置き、**回転** ダイアログ ボックスを開きます。

	ェクト上に存在する場合、F3 は、印刷モードと実行モード間で切り換えを行います。				
F4	*編集ウィンドウ:* 編集ウィンドウの内容を印刷します。	Ctrl + E	選別された要素かコマンド(この近道ショートカットをサポートするそれらのコマンドのための)を実行します。	Ctrl + F4	PC-DMIS をプログラム モードに置きます。
F5	**セットアップ オプション** ダイアログ ボックスにアクセスします。	Ctrl + F	自動フィーチャー ダイアログ ボックスが開きます。	Ctrl + F5	PC-DMIS をテキスト ボックス モードに置きます。
F6	**フォントセットアップ** ダイアログ ボックスにアクセスします。	Ctrl + G	編集ウィンドウ内に `READPOINT/` コマンドを挿入します。	Ctrl + Tab	編集ウィンドウを最小規模に縮小したり、普通の大きさに回復したりします。
F7	*編集ウィンドウ:* 選択されたトグル フィールド内で、アルファベット順で次のエントリーに進みます。	Ctrl + J	*編集ウィンドウ:* 参照されているコマンドにジャンプします。	Ctrl + Shift	グラフ上の、選択された分析矢印を隠します。

F8	*編集ウィンドウ:* 選択されたトグルフィールド内で、アルファベット順で直前エントリーに後退します。	Ctrl + K	編集レポート内で、選択された寸法を保存します。	Ctrl + End	*編集ウィンドウ:* 現時点での測定ルーチンの末尾に、カーソルを移動します。
F9	*編集ウィンドウ:* カーソルの位置にあるコマンドに関連した、ダイアログ ボックスを開きます。	Ctrl + L	その時点で選択された、コマンドのブロックが実行されます。	Ctrl + Home	*編集ウィンドウ:* 現時点での測定ルーチンの開始に、カーソルを移動します。
F10	**パラメータ設定** ダイアログ ボックスが開きます。	Ctrl + M	編集ウィンドウに MOVEPOINT コマンドを挿入します。	Ctrl + Alt + A	**パーツ配置**ダイアログ ボックスが開きます。
F12	**取付具の設定**ダイアログ ボックスが開きます。	Ctrl+N	測定ルーチンの新規作成	Ctrl + Alt + L	QuickAlign 機能を使用して自動整列を作成します。
SHIFT + 右クリック	**画図サイズ調整**ダイアログ ボックスが開きます。	Ctrl + O	測定ルーチンを開くこと	CTRL + ALT + P	**プローブのユーティリティ**ダイアログ ボックスを開きます。
Shift + Tab	*編集ウィンドウ:* 直前のユーザーの	Ctrl + P	グラフィックの表示ウィンドウの印	Ctrl + Click	テキスト ボックスモードにおいて、グラフィックス表示ウ

	編集可能なフィールドに、カーソルを戻します。		刷		ィンドウ内のフィーチャー、または、ラベル ID 上でこの動作を行うと、カーソルが編集ウィンドウ内のそのフィーチャー上に移動します。 **分析** ダイアログ ボックスが開いた状態で、この動作を行うと、それは関連した寸法すべてを選択します。
SHIFT + 矢印	カーソルの移動につれ、すべてのテキストがハイライト表示されます。	Ctrl + Q	*編集ウィンドウ:* 現時点の測定ルーチンを実行します。	Ctrl + Shift + H	*編集ウィンドウ：* グラフィック表示ウィンドウで選択した要素を強調表示します。
Shift + F5	*編集ウインドウ:* 寸法のヒットを変更すると、寸法の表示はデカルトと極座標の間で、切り替えます。'P'文字は極座標表示モードを示します。	Ctrl + R	**回転**ダイアログ ボックスが開きます。	Ctrl + Shift + U	*編集ウィンドウ:* グラフィック表示ウィンドウから選択された要素のハイライトをクリアします。
Shift + F6	*編集画面：* コマンドモードにある場合、これは**カラーエ**	Ctrl + S	現時点の測定ルーチンを保存します。	アップ矢印	*編集ウィンドウ:* 現在のポジションの上に、次のに利用可能なフィーチャーにカーソルを移動しま

	ディタダイアログボックスを開きます。				す。
Shift + F10	*編集ウィンドウ:***ジャンプ先** ダイアログ ボックスにアクセスします。	Ctrl + T	*編集ウィンドウ:* その時点でのコマンドを (または、選択されたコマンド)アーム１、アーム２、あるいは、その両方に割り当てます。	ダウン矢印	*編集ウィンドウ:* 現在のポジションの下に、次の利用可能なフィーチャーにカーソルを移動します。
END	フィーチャーの測定を終了します。 *編集ウィンドウ:* 現時点でのラインの終端に、カーソルを移動します。	Ctrl + V	*編集ウィンドウ:* クリップボードの内容を貼り付けます。 フォームおよびレポート エディタ: コピーされた オブジェクトを貼り付けます。	右矢印	*編集ウィンドウ:* 現在のポジションの右側の、次の利用可能なフィーチャーにカーソルを移動します。 要約モードにおいて、これは、縮約された一覧を拡大します。
Home	*編集ウィンドウ:* 現在のラインの冒頭に、カーソルを移動します。	Ctrl + X	*編集ウィンドウ:* 選択されたテキストを切り取ります。 フォームおよびレポート エディタ: 選択したオブジェクトを切り取ります。	左矢印	*編集ウィンドウ:* 現在のポジションの左に、次の利用可能なフィーチャーにカーソルを移動します。 要約モードにおいて、これは、拡大された一覧を縮約します。
タブ	*編集ウィンドウ:* 次のユーザー編集可能なフィールドにカ	Ctrl + Y	*編集ウィンドウ:* カーソルの所在位置から、測定ルーチンを実行します。	ALT + "-" (マイナス)	ALT に続いて、マイナス キーを押すと、ヒット バッファ内の直前のヒットを削除します。

	ーソルを移動します。				
ESC	入力キーが押される前に、このキーが押されると、すべてプロセス(データ エントリー以外)が中止されます。	Ctrl + Z	スケール適合機能をアクティブにします。	Alt + C	**ClearanceCube** ダイアログボックスを表示します。
削除する	*編集ウィンドウ:*「バックスペース」を参照して下さい。	Ctrl + Enter または Return キー	*編集ウィンドウ:* 要約モードにおいて、このキーボードのショートカットを用いると、編集ウィンドウに付け加えるコマンドを選択することができます。	Alt + H	ヘルプメニューにアクセスします。
Backspace	*編集ウィンドウ:* ハイライト表示された文字すべてを削除します。ハイライト表示されたものがない場合には、普通のエディタ内と同じように機能します。項目を削除できない場合、エラーメッセージ	Ctrl + Click	複数の表面の選択に対応する、ダイアログ ボックスが開いた状態で、これは、選択されていない表面を選択するか、または、選択された表面の選択を消去します。	Alt + J	*編集ウィンドウ:* 参照されているコマンドからジャンプして戻ります。

	が表示されます。				
Enter または Return	*編集ウィンドウ：*カーソルが行から移動される前に、完了していない場合、自動的に削除される空白行を新規作成します。 コマンドを選びます。	Ctrl + Click	*グラフィックス表示ウィンドウ:* CAD 面上の未使用領域で、このアクションを実行すると、選択されたすべての面の選択が解除されます。	Alt + P	*グラフィック表示ウィンドウ:* 全ての測定ルーチン用のプローブの現在のパスを描画します。
Shift + F4	機械インターフェイスの設定を開始します。	Ctrl キー+左マウスドラッグ	マウスがリリースされる時、ダイアログ ボックス、または、ツール バーを、インターフェース内にドッキングすることなく、ドラッグします。	Alt + Shift + P	*グラフィック表示ウィンドウ:* カーソル位置の前後要素のプローブの現在のパスを描画します。
SHIFT + 右クリック	*レポート ウィンドウのラベル オブジェクト:* **レポートダイアログ ボックス**を表示します。	Ctrl キー+左マウスドラッグ (また、中心にあるマウスホイールボタンをクリックし、ドラッグして下さい)	*グラフィックの表示ウインドウ*マウスがドラッグされると、グラフィックス表示ウィンドウ内で 2D で CAD モデルを回転します。	Alt + F3	*編集ウィンドウ:* **検索**ダイアログ ボックスを開きます。
SHIFT + ク	*グラフィッ*			Alt +	*編集ウィンドウ:* 編

リック	*クの表示ウィンドウ:* ハイライト表示の CAD 要素に基づいて、自動要素を作成します。			Backspace	集ウィンドウ内で行われた、直前の操作を取り消します。
				Shift + Backspace	*編集ウィンドウ:* 編集ウィンドウ内で取り消された、直前の操作を再実行します。
				Alt キー+ 右マウスドラッグ	*グラフィック表示ウインドウ:*マウスがドラッグされると、グラフィックス表示ウィンドウ内で 2D で CAD モデルを回転します。
				ALT + クリック	*グラフィックス表示ウィンドウ:* 編集ウィンドウの基本となる要素のマックされた状態を切り替えます。

ショートカット メニューについての参照

ショートカットメニューは、ユーザーインターフェイスの特定のエリアを右クリックしたときに表示されるコンテキストメニューです。この項は、各種ショートカット メニューへのアクセス方法と、様々なメニュー オプションの機能を説明します。

Windows の標準ダイアログ ボックスでのショートカット メニュー

Windows のダイアログボックス（例えば、**オープン**、**保存**、および**印刷**ダイアログボックスなど）に存在する標準コマンド以外にも、PC-DMIS は一定の条件でショートカットメニューに機能を追加することができます。これらの多くは「高度なファイルオプションの使用」及び「基本的なファイルオプションの使用」で説明されています。

他のファイル オペレーションを開き、保存し、または、使用している時、以下のショートカット メニューのオプションを表示するには、ダイアログ ボックスに一覧表示されている、その測定ルーチンのファイル名を右クリックして下さい。

PC-DMIS インポート
選択された測定ルーチン内に、入力ファイルからのデータをインポートします。「詳細なファイルオプションの使用」章にある「CAD データ及び要素データのインポート」を参照して下さい。

PC-DMIS のエクスポート
選択された測定ルーチンから、出力ファイルへデータをエクスポートします。「詳細なファイルオプションの使用」章にある「CAD データ及び要素データのエクスポート」を参照して下さい。

開く
測定ルーチンを開きます。「基本的なファイルオプションの使用」の章にある「既存の測定ルーチンを開く」を参照して下さい。

切取り
測定ルーチンを切り取り、それをクリップボードに移動します; これは、切り取られたファイルを別のフォルダ内に配置するために Windows の**貼り付け** コマンドと共に使用されます。

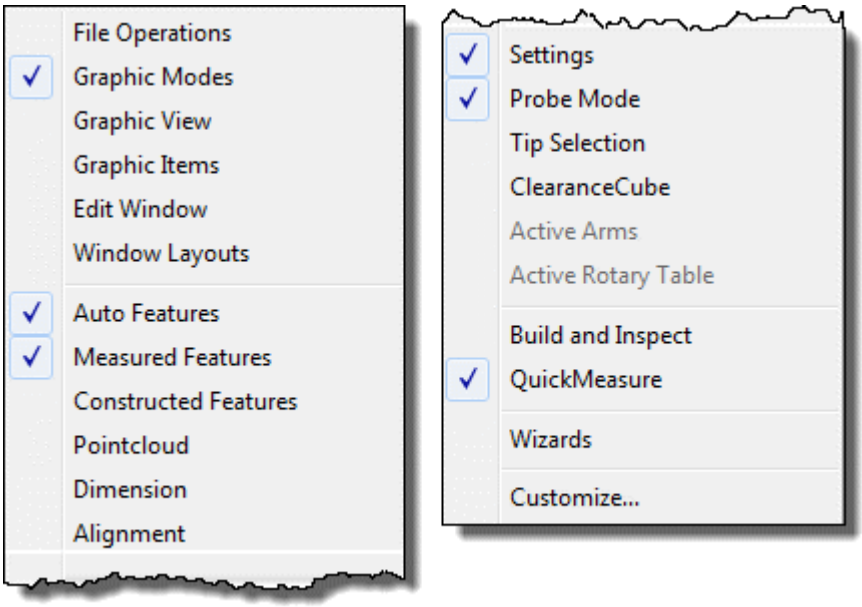
コピー
測定ルーチンをコピーし、それをクリップボードに移動します; これは、コピーされたファイルを別のフォルダ内に配置するために **貼り付け** コマンドと共に使用されます。「基本的なファイルオプションの使用」の章にある「ファイル操作の実行」を参照して下さい。

改名
測定ルーチンの名前を変更します。

削除
測定ルーチンを削除します。「基本的なファイルオプションの使用」の章にある「ファイル操作の実行」を参照して下さい。

ツール バー エリアでのショートカット メニュー

ツール バーエリアを右クリックすると、PC-DMIS は、即座にアクセスが可能な、ツール バー、及び、他のオプションの一覧を表示します。以下が含まれます。



以下のオプションが利用可能です。

ファイルのオペレーション
ファイル オペレーションツールバーをツール バー エリアに追加、または、ツール バー エリアから除去します。

グラフィックス モード
グラフィックスモードツール バーをツールバー エリアに追加、または、ツール バー エリアから除去します。

編集ウィンドウ
編集ウィンドウ ツール バーをツール バー エリアに追加、または、ツール バー エリアから除去します。

ウィンドウのレイアウト
ウィンドウのレイアウト ツール バーをツール バー エリアに追加、または、ツール バー エリアから除去します。

要素の自動作成
要素の自動作成ツール バーをツール バー エリアに追加、または、ツール バー エリアから除去します。

測定された要素
測定された要素ツール バーをツール バー エリアに追加、または、ツール バー エリアから除去します。

構築された要素
構築された要素ツール バーをツール バー エリアに追加、または、ツール バー エリアから除去します。

PointCloud
PointCloud ツール バーをツールバーのエリアに追加するか、またはツールバーのエリアから除去します。

寸法
寸法ツール バーをツール バー エリアに追加、または、ツール バー エリアから除去します。

整列
整列ツールバーをツール バーのエリアに追加するか、またはツールバーのエリアから除去します。

設定
設定ツール バーをツール バー エリアに追加、または、ツール バー エリアから除去します。

プローブ モード
プローブ モードツール バーをツール バー エリアに追加、または、ツール バー エリアから除去します。

測定子の選択
測定子の選択ツールバーをツールバーのエリアに追加するか、またはツール バーのエリアから除去します。

ClearanceCube
ClearanceCube ツールバーをツールバーのエリアに追加するか、またはツールバーのエリアから除去します。

アクティブアーム
アクティブアーム ツール バーをツール バー エリアに追加、または、ツール バー エリアから除去します。

アクティブな回転テーブル
アクティブな回転テーブル ツール バーをツール バー エリアに追加、または、ツール バー エリアから除去します。

構築と検査
構築と検査ツール バーをツールバーのエリアに追加するか、またはツールバー のエリアから除去します。

QuickMeasure
指定の **QuickMeasure** ツールバー(CMM QuickMeasure ツールバー、Portable QuickMeasure ツールバー、 Vision QuickMeasure ツールバー、 QuickCloud ツールバー)をツールバーのエリアに追加するか、またはツールバー のエリアから除去します。

ウィザード
ウィザードツール バーをツール バー エリアに追加、または、ツール バー エリアから除去します。

カスタマイズ
特別な用件を満たすために、ツール バー、及び、メニューをカスタマイズします。「ユーザーインターフェースの利用」の章にある「ユーザー インターフェースのカスタマイズ」を参照して下さい。

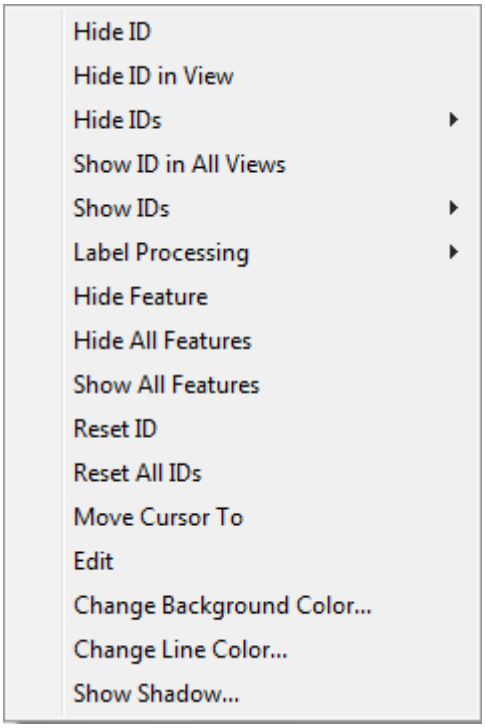
ツールバーに関する情報については、「ツールバーの使用」の章を参照してください。

グラフィックス表示ウィンドウでのショートカット メニュー

以下のショートカットメニューは、グラフィックス表示ウィンドウ内 (**ビュー | グラフィカル表示ウインドウ**)で利用可能です。特定のエリアを右クリックすることによって、それらにアクセスします。それらの一部は、PC-DMIS が特定のモードにあることを要求します (「ツール バーの使用」の章にある「グラフィックス モード ツール バー」トピックを参照して下さい)。現在のモード次第で、PC-DMIS は、異なるメニュー オプションを表示します。

要素ショートカット メニュー

このショートカット メニューにアクセスするには、グラフィックス表示ウィンドウから、要素の ID ラベル、寸法情報ボックス、点情報ボックス、要素制御フレーム、または CAD GD&T の引出しを右クリックします。これを CAD GD&T コールアウトで表示するには、ソフトウエアをテキストボックスモードにする必要があります。詳細情報については、「CAD 表示の編集」章の「テキストボックスモード」トピックを参照して下さい。



GD&T コールアウトを右クリックすると、これらの同じメニュー項目の多くが表示されますが、この場合メニュー項目の表示または非表示しか機能しません。

以下のオプションが利用可能です。

ID を非表示
このメニューオプションを選択すると、グラフィックの表示ウィンドウにある単一の ID ラベルが隠されます。隠されたラベルはまだ存在しており、単にビューから隠れているだけです。

ビューの ID を隠す
現在のビューのみで、選択した要素の ID ラベルを隠します。ほかのビューでは表示されたまま残ります。

ID を表示するか、隠す
これらのサブメニューが選択されると、異なる要素の ID ラベルを表示したり隠したりできます。以下の ID ラベルの種類から表示、非表示にするものを選択できます。

- **すべて** - すべての要素ラベル、寸法情報、点情報、および要素制御フレームを表示か非表示にします。
- **要素ラベル** - すべての要素のラベルを表示又は非表示にします。
- **ビューに可視の要素のラベル** - 現在のビューに表示されるすべての要素にすべて要素のラベルを表示または非表示にします。

- **寸法情報** - すべての要素にすべての寸法情報を表示または非表示にします。
- **点の情報** - すべての要素にすべての点情報を表示または非表示にします。
- **要素制御フレーム** - すべての要素及び CAD GD&T のコールアウトためのすべての要素制御フレームを表示または非表示にします。

ID ラベルを隠すよう選択しても、ID ラベルはまだ存在しビューから隠れるだけです。

すべてのビューで ID を表示

すべてのビューで、選択した要素の ID ラベルを表示します。

ラベル処理

このサブメニューには[**ラベルの自動配置**]オプションが含まれています。このメニューオプションを使用すると、現在のビューのエッジ周辺で要素の ID ラベルの自動配置を一括で実行できます。

要素を非表示

このオプションを選択すると、1 つの要素を隠し、それをグラフィックの表示ウィンドウから削除します。要素はまだ存在しビューから隠れるだけです。

要素をすべて隠す

このオプションを選択すると、パート上の要素をすべて隠し、それらをグラフィックの表示ウィンドウから削除します。要素はまだ存在しビューから隠れるだけです。

要素をすべて表示

このオプションを選択すると、以前に隠されていた要素すべてをグラフィックの表示ウィンドウに表示します。

ID のリセット

このオプションは、1 つの要素ラベルを要素の隣の元の位置に戻します。

ID をすべてリセット

このオプションを選択すると、すべての ID ラベルが各要素の隣にある元の位置に戻ります。

カーソルの移動先

編集ウィンドウ内で、編集ウィンドウのカーソルをこの要素のコマンドラインに移動するには、このメニューオプションを選択します。これは、編集ウィンドウのカーソルの位置*のみに*作用し、グラフィックの表示ウィンドウのプローブの位置は変わりません。

編集

このメニューオプションを選択すると、編集ウィンドウで基になるコマンドに該当する

ダイアログボックスが現れ、そのコマンドを編集するためにダイアログボックスを使用することができます。

背景色を変更

このオプションを選ぶと、[**ラベルオプションの変更**]ダイアログ ボックスが表示されます。このダイアログ ボックスを用いて、要素の ID ラベル向けの背景色を変更することができます。全要素ラベルをこの新しい色に変えるか、または現在のタイプのラベルのみをこの新しい色に変えるかを選択できます。次の 3 種類の異なるタイプのラベルが用意されています:要素 ID ラベル、測定結果情報ボックス、および点情報ボックス。

[**デフォルト**]ボタンをクリックするとデフォルト設定を変更できます。

これは要素コントロールフレームでは機能しません。

線色を変更

このオプションを選ぶと、[**ラベルオプションの変更**]ダイアログ ボックスが表示されます。このダイアログ ボックスを用いて、要素の ID ラベル向けの境界線の色を変更することができます。すべての要素ラベルの境界で新しい色に変更するか現在のラベルの種類のみ変更するかを選択できます。次の 3 種類の異なるタイプのラベルが用意されています:要素 ID ラベル、測定結果情報ボックス、および点情報ボックス。

[**デフォルト**]ボタンをクリックするとデフォルト設定を変更できます。

これは要素コントロールフレームでは機能しません。

影を表示

このオプションを選ぶと、[**ラベルオプションの変更**]ダイアログ ボックスが表示されます。このダイアログ ボックスを用いて、要素の ID ラベルの下に、小さい影を表示したり、隠したりすることができます。すべてのタイプのラベルに影を付け加えるか、その時点でのタイプのラベルにのみに影を付け加えるかを選択できます。次の 3 種類の異なるタイプのラベルが用意されています:要素 ID ラベル、測定結果情報ボックス、および点情報ボックス。

[**デフォルト**]ボタンをクリックするとデフォルト設定を変更できます。

フィーチャーコントロールフレームを伴う場合、これは機能しません。

テキスト ボックス モードにおける、フィーチャー ショートカット メニューの追加

テキストボックスモードで、PC-DMIS 標準要素のショートカットメニューにこれらの補充のオプションを追加します。以下が含まれます。

要素の制御フレームの作成
このオプションでは、選択された要素から位置要素の制御フレーム (FCF) の寸法を作成できます。**GD&T** ダイアログボックスが表示されます。FCF 寸法の作成方法については、「要素制御フレームの使用」を参照してください。

寸法作成情報のボックス
このオプションを選ぶと、ハイライトされた要素から[寸法情報]テキストボックスが作成されます。[**寸法情報の編集**]ダイアログ ボックスが表示され、作成された寸法情報テキストボックスから利用可能な寸法が表示されます。

要素に寸法が 1 つも関連付けられていない場合、PC-DMIS はその要素に対してデフォルトの位置の寸法を自動的に作成します(「旧式寸法の使用」章の「位置の測定」を参照してください)。この[**寸法情報の編集**]ダイアログボックスの使用に関する、より詳しい情報については、「レポートコマンドの挿入」章の「寸法情報ボックスの挿入」を参照して下さい。

点作成情報ボックス
のこのメニューオプションを選ぶと、ハイライトされた要素から[点情報]テキストボックスが作成されます。[**点情報の編集**]ダイアログ ボックスが現れ、[点情報]テキスト ボックスを作成可能な要素（及び、利用可能な測定結果)が表示されます。この[**点情報の編集**]ダイアログ ボックスを使用して[点情報]テキストボックスを作成することに関する、より詳しい情報については、「レポートコマンドの挿入」の章にある「点情報ボックスの挿入」を参照して下さい。

ID を表示
選択した要素のラベルに非表示を解除します。(これは単にラベルを隠して、要素の近くで右クリックすれば、利用可能です。）

CAD GD&T 表示フィルタ
このメニューオプションでは、どの CAD GD&T キャプションを表示するかフィルタリングすることができます。「CAD 表示の編集」の章にある「CAD GD&T 引き出し線を使用した操作」を参照して下さい。

これらの新しいオプションにアクセスするには:

1. **テキストボックスモード**アイコンを選択します。詳細情報については、「CAD 表示の編集」章の「テキスト ボックス モード」トピックを参照して下さい。
2. グラフィックの表示ウィンドウ内で、要素または要素の ID ラベルを右クリックし、ショートカットメニューを表示します。

テキストボックスモードでの測定結果/点情報メニュー

テキストボックスモードの時に、寸法情報ボックスまたは点情報ボックスを右クリックすると、PC-DMIS 標準要素のショートカットメニューに次の 2 つのオプションを追加します:

編集
このオプションでは、選択した [寸法情報] または [点情報] テキストボックスを編集できます。若干変更された [**寸法情報の編集**] または [**点情報の編集**] ダイアログ ボックスが開きます。ダイアログ ボックスの下部に並んだ標準のボタンに加えて、[**すべてに適用**] ボタンが利用可能です：

すべてに適用をクリックすると、ダイアログボックスで行われた変更を すべての寸法情報やポイント情報ボックスに適用されるようにします。

変更情報ボックスに対して元から作られた変更のみがすべての測定結果情報または点情報ボックスに適用されます。既に別の情報ボックスと異なっているオリジナルの情報ボックスの設定は他の情報ボックスには適用されません。

より詳しい情報については、「レポート コマンドの挿入」の章の「測定結果情報ボックスの挿入」を参照して下さい。

削除
このメニューオプションを選ぶと、選択された寸法または点情報テキストボックスを削除することができます。編集ウィンドウに対応の POINTINFO または DIMINFO コマンドも削除されます。

これらの新しいオプションにアクセスするには:

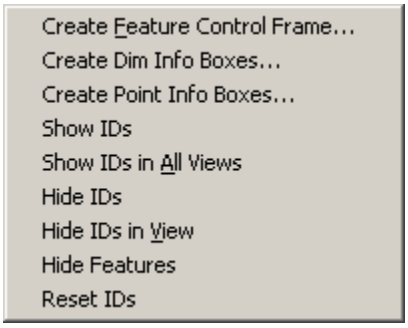
1. [**テキストボックスモード**]アイコンを選択します(「CAD 表示の編集」の章にある「テキストボックスモード」を参照して下さい)。
2. グラフィックの表示ウインドウの**寸法情報**または**点情報**ボックスを右クリックします。

ボックス選択ショートカット メニュー

このショートカットメニューは**テキストボックスモード**でのみ使用できます。このメニューにアクセスするには:

1. [**テキストボックスモード**]アイコンを選択します(「CAD 表示の編集」の章にある「テキストボックスモード」を参照して下さい)。
2. 1 つかそれ以上の要素をボックス選択します。PC-DMIS は、そのボックス内のグラフィックス フィーチャーかフィーチャーID をすべて選択します。

次のオプションを持つショートカットメニューが現れます:



以下のオプションが利用可能です。

要素の制御フレームの作成
このオプションでは、選択された要素から位置要素の制御フレーム (FCF) の寸法を作成できます。**GD&T** ダイアログ ボックスが現れます。FCF 寸法の作成方法については、「要素制御フレームの使用」を参照してください。

寸法情報ボックスを作成
このメニュー オプションを選ぶと、選択した要素から[測定結果情報]テキスト ボックスが作成されます。

ハイライトした要素のうちの 1 つ向けに、[**測定結果情報の編集**]ダイアログ ボックスが表示され、最初に作成できた測定結果情報ボックスから利用可能な測定結果が表示されます。

[**測定結果情報の編集**]ダイアログ内のご希望のオプションを選んだ後に、[**OK**]または[**作成**]ボタンををクリックすると測定結果情報ボックスが作成されます(編集する場合は[**適用**] ボタンを押します)。

[**測定結果情報の編集**] ダイアログ ボックスで選択された測定結果を用いて、最初の測定結果情報ボックスが作成されます。

各要素に関連付けられたすべての測定結果から、後続の情報ボックスが作成されます。

要素に寸法が 1 つも関連付けられていない場合、その要素に対してはデフォルトの位置の寸法が自動的に作成されます(「旧式寸法の使用」章の「位置の測定」を参照してください)。この[**寸法情報の編集**]ダイアログ ボックスの使用に関する、より詳しい情報については、「レポートコマンドの挿入」章の「寸法情報ボックスの挿入」を参照して下さい。

ポイント情報ボックスを作成

このメニュー オプションを選ぶと、ハイライト表示さた要素から[点情報]のテキスト ボックスが作成されます。ハイライト表示された要素向けに[**点情報の編集**]ダイアログ ボックスが現れ、[点情報]テキスト ボックスを作成可能な要素（及び、利用可能な測定結果)が表示されます。

[点情報の編集]ダイアログ内のご希望のオプションを選んだ後に、情報ボックスの作成のために **OK** か、または、**作成**ボタンのいずれかを選択して下さい (編集する場合は**適用** ボタンを押してください)。

[**点情報の編集**] ダイアログ ボックスで選択された要素または測定結果を用いて、最初の情報ボックスが作成されます。各要素に関連付けられたすべての測定結果と要素自体から、後続の点情報ボックスが作成されます。すべての測定結果と要素のヒットに対する点情報ボックスが作成されます。この[**点情報の編集**]ダイアログ ボックスを使用して[点情報]テキストボックスを作成することに関する、より詳しい情報については、「レポートコマンドの挿入」の章にある「点情報ボックスの挿入」を参照して下さい。

ID ラベルの表示、非表示

これらのメニューオプションの 1 つを選択すると、選択されたすべての要素を表示、または非表示します。ID ラベルを隠すよう選択しても、ID ラベルはまだ存在しビューから隠れるだけです。

ID ラベルをすべてのビューに表示

このオプションを選ぶと、利用可能なグラフィックス表示ウィンドウの画像区画のすべてで、選択された全 ID ラベルが表示されます。

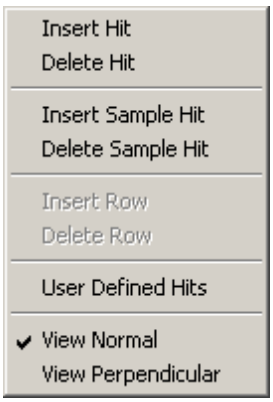
ID ラベルをビューから隠す

このオプションを選ぶと、その時点でのグラフィックス表示ウィンドウの画像区画において、選択された全 ID ラベルを隠します。

要素の隠し
このオプションを選択すると、パート上で選択した要素すべてを隠し、それらをグラフィックの表示ウィンドウから削除します。要素はまだ存在しビューから隠れるだけです。

ID ラベルのリセット
このオプションを選択すると、選択した ID ラベルがすべて各要素の隣にある元の位置に戻ります。

[自動パス ライン要素] ショートカット メニュー



このショートカットメニューにアクセスするには、**要素の自動作成**ダイアログ ボックス (**挿入 | 要素 | 自動 | <要素タイプ>**)内の**パスの表示を切り替え**ボタンを選択します。

以下のオプションが利用可能です。

ヒットを挿入
自動要素に追加のヒットを挿入します。

ヒットを削除
自動要素から選択したヒットを削除します。

サンプル ヒットを挿入
自動要素にサンプルヒットを挿入します。

サンプル ヒットを削除
自動要素から選択したヒットを削除します。

行を挿入
円筒や円錐など、複数行のヒットを使用する要素を使って作業している場合、別のヒットの行を挿入します。

行の挿入
円筒や円錐など、複数行のヒットを使用する要素を使って作業している場合、選択したヒットの行を挿入します。

ユーザ定義のヒット
マウスを用いて、ヒットや経路に手動で変更する時には、常に、このメニュー オプションが自動的に選択されます。

その後、このメニューを選択解除すると、PC-DMIS は、これまでの変更内容を廃棄し、それ以前の状態に戻します。

それに加え、このオプションをヒット用に選択し、それから、[**横から垂直に表示**]を用いて、 そのフィーチャーを横から垂直に表示する場合、その特定のヒットの深さや高さを調整することが可能です。

ビューノーマル
これは要素の CAD ビューを真上からのビューに変更します。

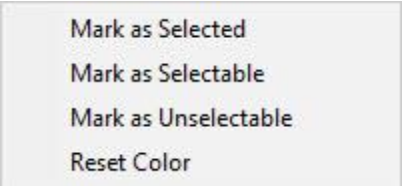
垂直ビュー
これは、要素の CAD ビューを横方向からのビューに変更し、要素の深さを定義したり追加レベルのヒットを追加する場合に理想的です。

CAD GD&T 吹き出しショートカットメニュー

このショートカットメニューを使用して、CAD GD&T 吹き出しを異なる色に設定して、現在の吹き出し（選択済、選択可能、または選択解除）の状態をよりよく伝えることができます。

このメニューにアクセスするには、ソフトウェアが GD&T 選択モードになっている必要があります。このモードを有効にするには、**グラフィックモード**ツールバーから **GD&T 選択モード** を有効にします。

CAD GD&T コールアウトを右クリックすると、メニューオプションが表示されます：



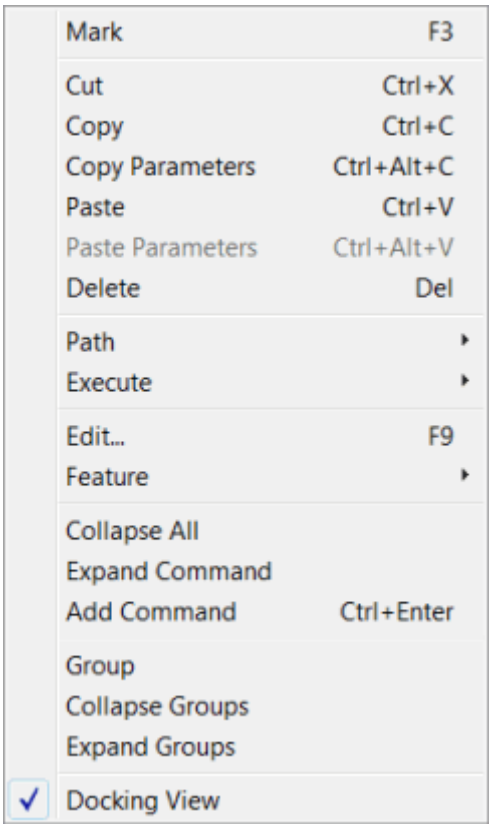
- **選択したことにマークする** - このコールアウトを選択したことを示すようにコールアウトの色を灰色に変更します。
- **選択可能にマークする** - これにより、コールアウトの色が選択可能な色に変更され、このコールアウトが選択可能であることを示します。
- **選択不能にマークする** - これは、コールアウトの色を無効な（選択不能な）色に変更し、このコールアウトが無効で選択できないことを示します。
- **色をリセット** - これはモデルをインポートしたときに、コールアウトの色を元の色に戻します。

編集ウィンドウでのショートカット メニュー

PC-DMIS の編集ウィンドウは、選択された編集ウィンドウ モード次第で、以下のショートカット メニューを含みます。

要約モード コマンド ショートカット メニュー

ユーザが編集ウインドウの要約モード (「編集ウインドウの使用」の章の「要約モードを使用した操作」を参照) でコマンド項目を選択して、コマンド項目の上で右クリックすると、コマンド ショートカット・メニューが現れます。このメニューには、以下のオプションがあります:



要約モード コマンド ショートカット メニュー

以下のオプションが利用可能です。

マーク (F3)

このオプションを選ぶと、そのオブジェクトを実行用にマークするか否か、マークの有無をトグル操作できます。

切り取り (ショートカット キーのストローク: Ctrl-X)
このオプションを選ぶと、選択されたコマンドがクリップボードから切り取られ、測定ルーチンから除去されます。

コピー (ショートカット キーのストローク: Ctrl-C)
このオプションを選ぶと、選択されたコマンドがクリップボードにコピーされます。

貼り付け (ショートカット キーのストローク: Ctrl+V)
このオプションを選ぶと、以前にクリップボードから切り取られた、または、コピーされたコマンドが、選択されたコマンドの下に貼り付けられます。

削除 (ショートカット キーのストローク: Del)
このオプションを選ぶと、選択されたコマンド、及びすべてのサブ コマンドが、測定ルーチンから削除されます。

パス | パスライン
このオプションは、選択した要素の範囲のみにパスラインを表示します。「CAD 表示の編集」の章の「パスラインの表示、アニメーション、および移動」を参照してください。

パス | 衝突の検出...
このオプションはさまざまな選択要素のために衝突検出を実行します。「CAD 表示の編集」の章の「衝突の検出」を参照して下さい。

パス | ClearanceCube | オフ
ClearanceCube 要素をオフにします。

パス | ClearanceCube | オン
ClearanceCube 要素をオンにします。

パス | ClearanceCube | 開始面
このオプションでは、ユーザーは開始面を選択して ClearanceCube を整列することできます。オプションは-X, +X, -Y, +Y, -Z, +Z およびオフです。

パス | ClearanceCube | 終了面
このオプションでは、ユーザーは終了面を選択して ClearanceCube を整列することできます。オプションは-X, +X, -Y, +Y, -Z, +Z およびオフです。

パス | パスの最適化
GROUP コマンドを右クリックした場合のみに、このオプションが表示されます。これは、グループの内部機能のパスの最適化を実行します。詳細については、「PC-DMIS で検査プランの使用」付録の「パスの最適化の実行」を参照してください。

実行 | マーク (ショートカット キーのストローク: F3)
このオプションを選ぶと、そのオブジェクトを実行用にマークするか否か、マークの有無をトグル操作できます。

実行 | 開始点として設定

このオプションは、可能な場合にカーソルの位置にルーチンの開始点を設定します。

実行 | カーソルからの実行
このオプションは、カーソルの現在位置の点からルーチンを開始します。

実行 | ブロック実行
このオプションは、指定されたコードブロックを実行します。

実行 | BreakPoint (ショートカット キーのストローク: Ctrl-B)
このオプションを選択すると、カーソルの現在位置にブレークポイントが挿入されます。

編集 (ショートカット キーのストローク: F9)
このオプションは、現在のコマンド･オブジェクトのダイアログボックスが表示されます。

要素 | CAD からの理論値をアップデート
このオプションは、測定ルーチンの理論値をインポートされた CAD 理論値でアップデートします。

要素 | 公称値探索の上書き
このオプションを選択すると、学習モードと実行モード中の PC-DMIS のデフォルトの公称値検索機能を上書きします。詳しい情報については、「測定ルーチンの編集」の章にある、「検索された公称値を上書き」を参照して下さい。

要素 | 測定値を理論値にリセット
このオプションはすべての測定値を測定ルーチンの理論値に設定します。

要素 | CAD で中心設定
このオプションはグラフィックの表示ウィンドウで、パートの CAD モデルを必要に応じて現在の要素の中心に移動、回転します。いったん中心に置かれると、要素は２、３回点滅します。この移動および回転操作は元に戻すことはできません。

要素 | CAD でハイライト
このオプションはグラフィックス表示のウインドウで選んだ要素を強調します。もしそれが隠されるなら、それは同じく要素ラベルを表示して強調します。第一の要素のハイライトをクリアするには、第二の要素を強調表示します。

要素 | CAD でハイライト解除
このオプションは **CAD でハイライト** メニュー項目を介してハイライトされた CAD 要素をクリアします。

要素 | 要素へプローブを移動
このオプションは選別された要素のためにグラフィックス表示ウインドウでアニメのプローブを CAD 要素に移動します。ユーザが最初要素コマンドを選択するなら、それは選択だけに利用可能になります。他のコマンドは支援されません。

要素 | SPH_Tip1 へ移動

*このオプションは、自動要素を右クリックした場合のみに表示されます。*選択した自動要素の中心へプローブを移動します。これは、**自要素の自動作成**ダイアログボックスの**移動先**ボタンと同じように機能します (**挿入 | 要素 | 自動 | <要素タイプ>**)。

警告: これを行うと機械が動きます。怪我を防止するために機械に近づかないでください。ハードウェアの損傷を防止するために機械を低速で動かしてください。

要素 | SPH_TIP1 をテスト

*このオプションは、自動要素を右クリックした場合のみに表示されます。*これは、選択された自動要素のテスト実行を行います。これは、**自動要素**ダイアログボックスにある**テスト**ボタンと同じように機能します。

警告: これを行うと機械が動きます。怪我を防止するために機械に近づかないでください。ハードウェアの損傷を防止するために機械を低速で動かしてください。

すべてを縮約

このオプションを選ぶと、拡大された項目すべてが縮約されます。

コマンドを拡大

このオプションを選ぶと、その時点でのコマンドラインを拡大し、選択されたコマンドに関連したデータ項目、または、グループ項目を表示します。

追加コマンド (ショートカットキーのストローク: Ctrl-Enter)

このオプションを選ぶと、アルファベット順のスクロール可能な一覧から、編集ウィンドウにコマンドを追加することができます。

ステップ 1 : コマンドの最初の数文字を入力することによって、リストをナビゲートします。PC-DMIS は自動的にそのコマンドに切り替えします。

ステップ 2: 一覧から、そのコマンドを選んで下さい。

ステップ 3: 「CTRL + ENTER」か、または、「ENTER」のいずれかのキーを押し、編集ウィンドウ内にその新コマンドを配置して下さい。

- 「CTRL + ENTER」を押して、ショートカットメニューを開くのに使用されるコマンド ブロック の後にコマンドを配置します。
- 「ENTER」を押して、ショートカットメニューを開くのに使用されるコマンド ブロック の内部にコマンドを配置します。Enter キーがこのように機能するのは、ユーザーが追加するコマンドが PC-DMIS が別のコマンドブロックに挿入できるコマンドタイプである場合の

みです。それ以外の場合には、PC-DMIS が、それをその時点のコマンドの後に挿入します。

グループ化

このオプションを選ぶと、ユーザー定義のグループに、一連のコマンドの一覧を挿入します。

グループを縮約

このオプションを選ぶと、拡大されたユーザー定義のグループすべてを縮約します。その他の拡大されたグループは、拡大されたまま留まります。

グループを展開

このオプションは、すべての折りたたまれたユーザ定義のグループを展開します。他の折りたたまれたアイテムが折りたたまれたままにしていください。

画像をドッキング

このオプションを選ぶと、編集ウィンドウがドッキングするか、ドッキング解除をするかを決めます。

- このオプションを選択解除すると、編集ウィンドウは、PC-DMIS の旧バージョンの場合と同じように作動し、グラフィックス表示ウィンドウ上で浮動表示されます。
- このオプションを選ぶと、編集ウィンドウをグラフィックス表示ウィンドウの側面か最上部か、または、底部にドッキングすることができます。

  ユーザーインターフェース要素のドッキングとアンドッキングの詳細については、「ユーザー インターフェース要素のドッキングとアンドッキング」を参照してください。

データ項目ショートカット メニュー

コマンドを拡張し、編集ウィンドウのデータ項目を右クリックすると、データ項目のショートカットメニューが表示されます。このショートカットメニューには、以下のオプションがあります:

編集 | 値/式テキスト

値をとる編集ウィンドウのフィールドでは、アイテムが編集できればは、これは現在の項目を編集します。データ項目がトグルアイテムである場合、トグル一覧が表示されます。それ以外の場合は、現在の値を編集するボックスが表示されます。

編集 | 式ビルダの使用

アイテムが編集できる場合、これは**式ビルダー**ダイアログボックスを開きます。選択したフィールドの式を作成するには、このダイアログボックスを使用することができます。

コピー | 値テキスト

値を取る編集ウィンドウフィールド上では、このオプションはデータ項目の値のテキストをクリップボードに複製しします。例えば、「ID : CIR2」フィールドの値テキストがコピーされると、これは「 CIR2 」テキストをクリップボードにコピーします。

コピー | 式テキスト

式を取る編集ウィンドウフィールド上では、このオプションは現時点の式テキストをクリップボードに複製します。例えば、5 (2+3)という値が表示された場合は、この値は(2+3)式から取得されたことと意味し、これは「2 + 3 」をクリップボードにコピーします。

コピー | 説明テキスト

選択されたオブジェクトが編集できれば、このオプションは、そのオブジェクトの編集フィールドを表示します。例えば、「ID : CIR2」フィールドの値テキストがコピーされると、これは「 ID 」テキストをクリップボードにコピーします。

パラメータをコピー

このオプションを選ぶと、選択されたパラメータがクリップボードにコピーされます。

貼り付け

コピーされた値、式テキスト、または項目の説明をクリップボードから新しい位置へ貼り付けます。

パラメータの貼り付け

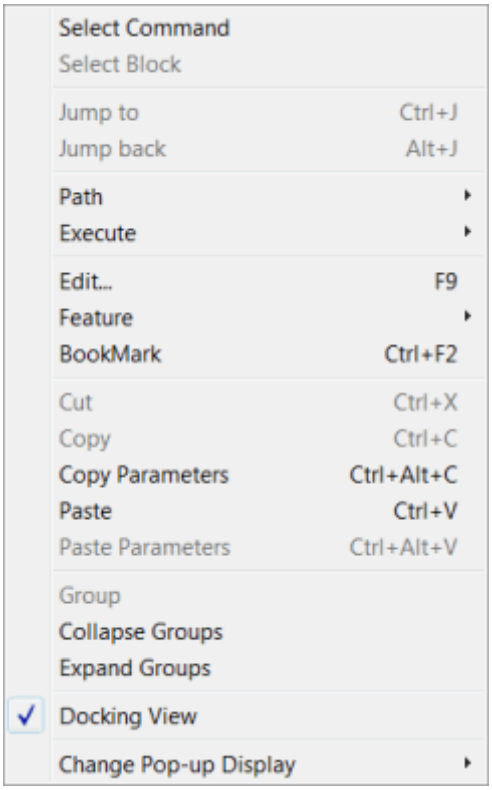
これは、**編集**ウィンドウのカーソル位置にクリップボードからコピーされたパラメータを貼り付けます。

画像をドッキング

このオプションは、マークされた場合に**編集**ウィンドウをドックしますが、マークされていない場合は、そのドッキングを解除しします。UI 要素をドッキングおよびドッキング解除する方法について詳しくは、「ユーザー インターフェース要素のドッキングとアンドッキング」を参照してください。

コマンドモードでのショートカットメニュー

次のショートカットメニューオプションは PC-DMIS がコマンドモードの時に利用可能です。これらのモードに関する、より詳しい情報については、「編集ウィンドウの使用」の章にある「コマンド モードでの作業」を参照して下さい。



以下のオプションが利用可能です。

コマンドの選択

このオプションはマウスを上に置いたコマンドを強調表示します。

ブロックを選択

マウスが開始または終了オブジェクトの上にある場合、ブロック全体を選択します。

<要素>にジャンプ (ショートカットキーのストローク : Ctrl-J)

このオプションを選ぶと、その時点でのコマンドから、参照されているフィーチャー ID に飛び移ります。

後方にジャンプ (ショートカットキーのストローク : Alt-J)

このオプションを選択すると、[**ジャンプ先**]オプションを選択する前にいたコマンドまで戻ります。

パス | パスライン

このオプションは、選択した要素の範囲のみにパスラインを表示します。「CAD 表示の編集」の章の「パスラインの表示、アニメーション、および移動」を参照してください。

パス | 衝突の検出...

このオプションはさまざまな選択要素のために衝突検出を実行します。「CAD 表示の編集」の章の「衝突の検出」を参照して下さい。

パス | ClearanceCube | 開始面

ClearanceCube | 開始面 オプションで、要素の測定前に PC-DMIS が移動する ClearanceCube 面を決定します。利用可能な設定は -X、+X、-Y、+Y、-Z、+Z および オフです。

パス **| ClearanceCube | 終了面**

ClearanceCube | 終了面 オプションで、要素の測定後に PC-DMIS が移動する ClearanceCube 面を決定します。利用可能な設定は -X、+X、-Y、+Y、-Z、+Z および オフです。

パス **| パスの最適化**

GROUP コマンドを右クリックした場合のみに、このオプションが表示されます。これは、グループの内部機能のパスの最適化を実行します。詳しくは、付録「PC-DMIS で検査プランを使用」の「パスの最適化」を参照してください。

実行 **| マーク (ショートカット キーのストローク: F3)**

このオプションを選ぶと、そのオブジェクトを実行用にマークするか否か、マークの有無をトグル操作できます。マークに関する詳しい説明については、「測定ルーチンの編集」の章にある「マーク」を参照して下さい。

実行 **| 開始点として設定**

このオプションでは、[**ファイル | 一部実行 | 開始点からの実行**]メニュー オプションを選ぶと、測定プログラム実行が開始する開始位置を決定できます。「測定ルーチンの編集」の章にある「開始点の設定」を参照して下さい。

実行 **| カーソルからの実行**

このオプションを選択すると、編集ウィンドウの現在の位置の挿入点から実行を開始します。

実行 **| ブロック実行**

このオプションを選択すると、現在マークされたコマンドブロックが実行されます。

実行 **| ブレークポイント**

このオプションを選択すると、カーソルの位置にブレークポイントが挿入されます。ブレークポイントのより詳しい説明については、「測定ルーチンの編集」の章にある「ブレークポイントの使用」を参照して下さい。

編集 **(ショートカット キーのストローク: F9)**

これによってダイアログボックスが表示され、カーソルが位置するコマンドを編集することができます。

要素 **| CAD からの理論値をアップデート**

このオプションは測定プログラムの設計値をインポートされた CAD 設計値で更新します。

要素 **| 公称値探索の上書き**

このオプションを選択すると [**設計値検索を上書き**] ダイアログ ボックスにアクセスして、編集ウィンドウで右クリックした点に対するデフォルトの設計値探索の動

作方法を上書きできます。詳しい情報については、「測定ルーチンの編集」の章にある、「検索された公称値を上書き」を参照して下さい。

要素 | 測定値を理論値にリセット

このオプションはすべての測定値を測定プログラムの設計上の値に設定します。

要素 | CAD で中心設定

このオプションはグラフィックの表示ウィンドウで、パートの CAD モデルを必要に応じて現在の要素の中心に移動、回転します。いったん中心に置かれると、要素は２、３回点滅します。この移動および回転操作は元に戻すことはできません。

要素 | CAD でハイライト

このオプションはグラフィックス表示のウインドウで選んだ要素を強調します。もしそれが隠されるなら、それは同じく要素ラベルを表示して強調します。第２の要素を強調することはハイライトから最初の要素を取り去ります。

要素 | CAD でハイライト解除

このオプションは上記の **CAD でハイライト** メニュー項目を使って作られたハイライトされた CAD 要素をクリアします。

要素 | 要素へプローブを移動

このオプションは選別された要素のためにグラフィックス表示ウインドウでアニメのプローブを CAD 要素に移動します。ユーザが最初要素コマンドを選択するなら、それは選択だけに利用可能になります。他のコマンドは支援されません。

要素 | <要素> をテスト

*このオプションは、自動要素を右クリックした場合のみに表示されます。*これは、選択された自動要素のテスト実行を行います。これは、**自動要素**ダイアログボックスにある**テスト**ボタンと同じように機能します。

警告: これを行うと機械が動きます。怪我を防止するために機械に近づかないでください。ハードウェアの損傷を防止するために機械を低速で動かしてください。

要素 | <要素> へ移動

*このオプションは、自動要素を右クリックした場合のみに表示されます。*選択した自動要素の中心へプローブを移動します。これは、**自要素の自動作成**ダイアログボックスにある**移動先**ボタンと同じように機能します。

警告: これを行うと機械が動きます。怪我を防止するために機械に近づかないでください。ハードウェアの損傷を防止するために機械を低速で動かしてください。

ブックマーク (ショートカットキーのストローク: Ctrl-F2)

このオプションを選択すると、カーソルの位置にブックマークが挿入されます。ブックマークの詳しい説明については、「測定ルーチンの編集」の章にある「ブックマークの使用」を参照して下さい。

切り取り (ショートカット キーのストローク: Ctrl-X)

このオプションを選ぶと、編集ウィンドウで選択したテキストが切り取られクリップボードにコピーされます。編集ウィンドウでの切り取りについて詳しい説明は、「測定ルーチンの編集」の章にある「切り取り」を参照して下さい。

切り取り (ショートカット キーのストローク: Ctrl-C)

このオプションを選ぶと、編集ウィンドウで選択したテキストがクリップボードにコピーされます。編集ウィンドウでの複製について詳しい説明は、「測定ルーチンの編集」の章にある「コピー」を参照して下さい。

貼り付け (ショートカット キーのストローク: Ctrl-V)

このオプションを選ぶと、クリップボードから編集ウィンドウのカーソル位置へテキストが貼り付けられます。編集ウィンドウでの貼り付けについて詳しい説明は、「測定ルーチンの編集」の章にある「貼り付け」を参照して下さい。

グループ化

このオプションを選ぶと、ユーザー定義のグループに、選択された一連のコマンドの一覧を挿入します。

グループを縮約

このオプションを選ぶと、拡大されたユーザー定義のグループすべてを縮約します。その他の拡大されたグループは、拡大されたまま留まります。

グループを展開

このオプションは、すべての折りたたまれたユーザ定義のグループを展開します。他の折りたたまれたアイテムが折りたたまれたままにしていください。

画像をドッキング

「要約モードのコマンドショートカットメニュー」にある説明を参照して下さい。

ポップアップ表示の変更 | 式の値

1. [式の値]を選択します。
2. カーソルを式の上に少しの間置きます。
3. 小さなポップアップウィンドウが現れ、式の現在の値が表示されます。

ポップアップ表示の変更| データタイプの情報

1. [データ種類の情報]を選択します。
2. カーソルをデータフィールドの上に少しの間置きます。
3. 小さなポップアップウィンドウが現れ、データ型の説明、データ型の番号、および型インデックスを含むデータフィールド情報を表示します。

このポップアップウィンドウに表示される情報は GETTEXT 式で使用されます。「入力式及び変数の使用」の章を参照して下さい。

ポップアップ表示の変更 | コマンド情報

1. **[コマンド情報]**を選択します。
2. カーソルを編集ウィンドウの任意のコマンドの上に少しの間置きます。

小さなポップアップウィンドウが現れ、コマンドの説明およびコマンドタイプの番号を表示します。このポップアップウィンドウに表示される情報は GETCOMMAND 式で使用されます。「入力式及び変数の使用」の章を参照して下さい。

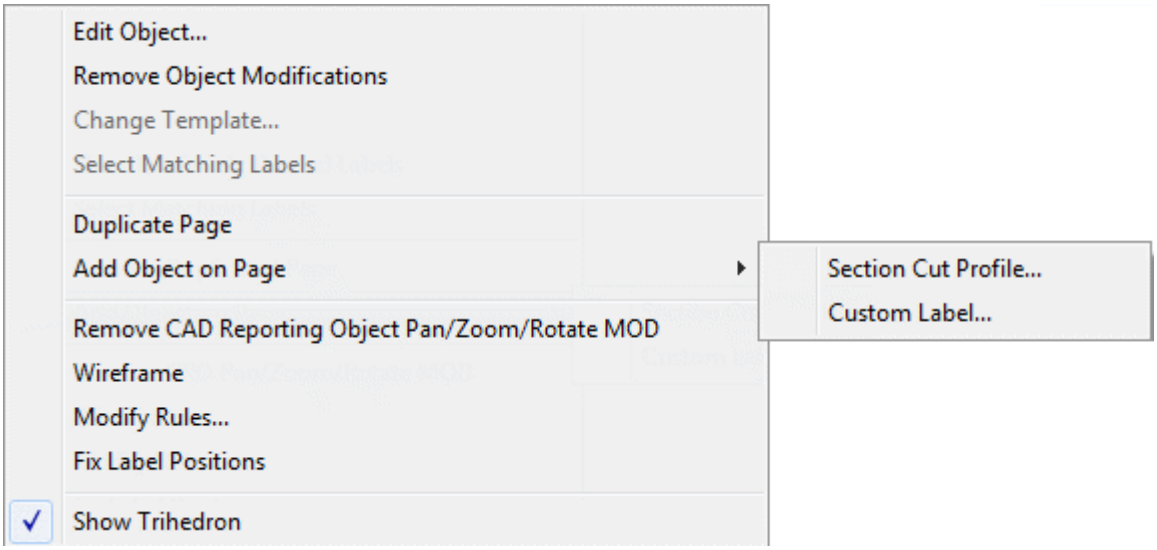
オブジェクト

このメニューオプションは編集ウィンドウに外部オブジェクトを挿入するまでは利用できません。これを行う方法についての説明は、「外部要素の追加」の章にある「外部オブジェクトの挿入」を参照して下さい。

編集ウィンドウに追加された外部オブジェクトを選択し、それを右クリックすると、このメニューがその特定のオブジェクトに固有のオプションを反映するよう変更されます。これらには、オブジェクトを開く、オブジェクトの編集、または単にオブジェクトのプロパティの変更などのオプションも含まれます。

レポート ウィンドウでのショートカット メニュー

レポート ウィンドウを右クリックすると、PC-DMIS は、レポート ウィンドウ内でのオブジェクトの表示方法を左右する、メニュー項目を持つショートカット メニューを表示します。あるメニュー項目は、レポート ウィンドウ内で、特定のオブジェクトを右クリックした場合にのみ表示されます。レポート ウィンドウのショートカット メニューからアクセスできる、各種のメニュー項目が下記の表で記述されています:



オブジェクトの編集
このオプションを選ぶと、レポート ウィンドウ内のその時点でのオブジェクトを、デフォルトの状態から変更します。

- レポート ウィンドウ内で、ラベル オブジェクト上を右クリックすると、**ラベルの属性** ダイアログ ボックスが表示され、それを用いて、ラベルを変更することができます。
- テキスト レポート オブジェクト (本質的に、レポートの末尾のテキストの空白部分、または、表以外の報告テキスト部分)上を右クリックすると、**レポート** ダイアログ ボックスが表示され、それを用いると、レポートに掲載する内容を決めることができます。

> **シフト**を押して、いずれかのラベルオブジェクトを右クリックすると**レポート**ダイアログボックスが表示されます。

詳しい情報については、「測定結果のレポート」の章にある「レポート ウィンドウの内容変更」を参照して下さい。

選択されたらべるを隠す
このオプションを選ぶと、CadReportObject と共に使用されて、選択されたラベルすべてを隠します。隠す予定のラベルを選択し、その後、このメニュー項目を表示するために、選択されたラベルのひとつを右クリックして下さい。ご希望のラベルの周りをマウスを用いてドラッグすることによって、あるいは、Ctrl キーを押し続け、ご希望のラベルをクリックすることによって、一度に複数のラベルを選択できます。

隠されたラベルを表示
このオプションを選ぶと、隠されたラベルがすべて表示されます。このメニュー項目を表示するには、CAD レポート オブジェクトを右クリックして下さい。

オブジェクトを取り除く
このオプションを選ぶと、選択されたラベル オブジェクト、あるいは、**ページにオブジェクトを追加**サブメニューを用いて追加された、切断側面図オブジェクトを除去します。

選択されたオブジェクトの除去を試みる時、**削除**キーを使用するべきではなく、削除キーを使用すると、かわりに編集ウィンドウ内の選択されたコマンドを削除することになります。

オブジェクト変更を取り除く
このオプションを選ぶと、**オブジェクトの編集**メニュー項目を用いての変更内容、または、対応するオブジェクトのサイズ変更や位置変更をすべて取り除き、右クリックされたオブジェクトが初期の状態に戻ります。

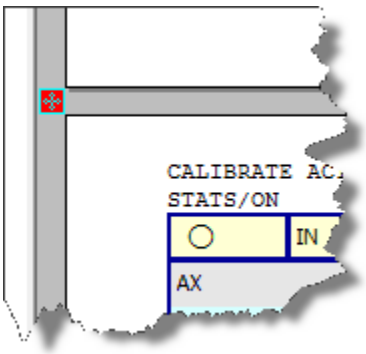
テンプレートの変更
このオプションを選ぶと、**開く** ダイアログ ボックスが表示され、 それを用いて、表示用のテンプレートを変更し、根拠をなすコマンドからのデータの書式整形を行います。そのコマンドと共に機能するよう特定された、テンプレートのみが、ダイアログ ボックス内に表示されます。

このオプション(**Select Matching Labels** メニューの品目を使用したなど後の)を使用する場合に、ユーザが複数のラベルを選択させるなら、PC-DMIS はすべての選択されたラベルにラベル変化を適用します。

一致ラベルを選択
このオプションは、ラベルを右クリックした時に現れます。このオプションはユーザがクリックしたラベルと同じラベルテンプレートを使用する現在のページにあるすべてのラベルを選択します。

ページの複製
このオプションを選ぶと、右クリックされたページと同一のページが、即座に、その時点でのページに続いて作成されます。これは、一ページに収まらず、複数ページにまたがるラベルの構成に役立つ可能性があります。

複製されたページの左上に赤い十字のアイコンが表示されます。

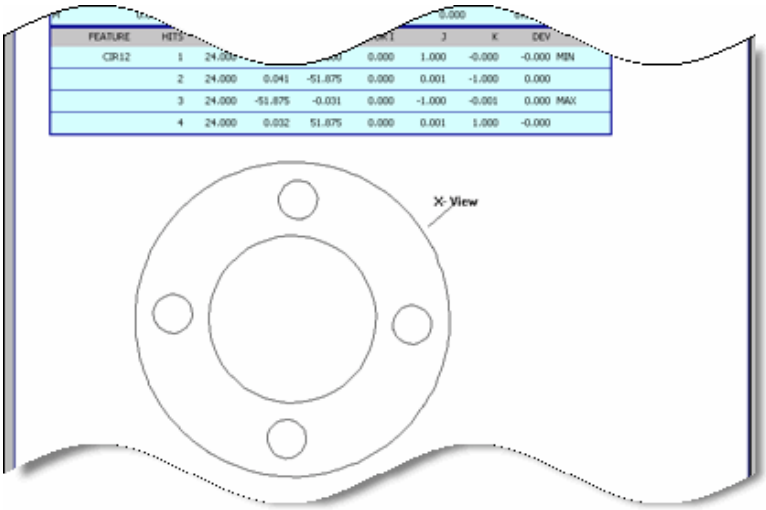


複製されたページであることを示す、十字アイコンの例

複製されたページを右クリックし、**複製ページの除去**を選択することにより、それを取り除くことができます。

複製されたページを取り除く
このオプションは、以前に複製されたページを右クリックした場合にのみ、メニュー内に表示されます。それを選択すると、複製ページがレポートから取り除かれます。

ページのオブジェクトを加える | 切断面輪郭図
このオプションはパーツモデルの切断面輪郭図をレポートに挿入します。



切断面の輪郭例

このオプションを選んだ後、マウスを使用してレポート ウィンドウ内にボックスをドラッグし、切断面のプロファイルを挿入します。より詳しい説明については、「測定結果のレポート」の章にある「切断オブジェクト」を参照して下さい。

この方法を用いて、内部が見えるよう一部が切断された、複数の画像をレポート内に挿入することが可能です。

ページのオブジェクトを追加 | カスタム ラベル
このメニュー項目を用いて、アクティブ レポート内に、カスタム ラベル オブジェクトを

すばやく挿入できます。この形式のラベル挿入プロセスは、規則系統図エディタとは全く連結していません。

このメニュー項目を選び、それから、レポート ウィンドウ内でボックスをドラッグして描いて下さい。**開く** ダイアログ ボックスが表示され、それを用いて、選択されたラベルテンプレートを、レポートのその時点のページ内にすばやく挿入することができます。

CAD レポートオブジェクトの移動/ズーム/回転 MOD を取り除く
このメニュー項目では、CADReportObject に加えたパン、ズーム、および回転の変更のみを削除できます。その他の変更(切断面、様々なラベルの定義、立体またはワイヤ表示など)は影響を受けませ t ん。

らベルの選択
このメニュー項目はユーザの報告で異なったセクション間に容易に複数のラベルを選択することを許します。

この項目を選択すると、PC-DMIS は[**ラベルの選択**]ダイアログ ボックスを表示します。このダイアログ ボックスには CADReportObject と結び付けられているレポートのラベルが表示されます。このダイアログから任意のラベルを選択し、ダイアログボックスの[**OK**]をクリックすると PC-DMIS はレポート内で対応するラベルを選択します。

ダイアログボックスに表示されるラベルはフィーチャータイプ、寸法タイプ、またはすべてのコマンドで制限できます。

詳しい情報については、「測定結果のレポート」の章にある「レポート ウィンドウの内容変更」を参照して下さい。

ワイヤー・フレーム
このメニュー項目は、モデルをワイヤーフレームまたは立体として表示することによって、選択された CADReportObject の表示を切り替えします。このメニュー項目は、レポート内の CAD レポート オブジェクトを右クリックした場合にのみ、表示されます。

ルールを修正
このメニュー項目は**ルール ツリー エディタ**ダイアログボックスの簡易型のバージョンを持って来ます。ユーザが、規則をオンまたはオフにすることには、このダイアログで**使用可能**か**使用不可能**オプションを使用できます

以前使用されていないラベルを表示
このメニュー項目は重複したページにある CADReportObject のラベルで機能します。

ユーザが 1 ページの CadReportObject の上の 1 セットのラベルをオフにして、次に、そのページをコピーする場合には、ユーザはオリジナルのページで使用されないラベルを見せさせるのに、コピーされたページでこのメニュー項目を使用できます。

ラベル位置を固定
このメニュー項目は各ラベル用の位置の変更を作成すれば、レポートが再度開かれるときに、PC-DMIS がラベル位置を再計算する必要がありません。